

春期合宿集中研究会（北京・大連）報告

黒田 彰三

隔年で恒例化している本研究所の海外での春期合宿集中研究会は2001年3月15日から20日にかけて五泊六日間で首都「北京」と東北地方の大都市であり日本からの進出企業も多い「大連」で行われた。特に今回は北京大学国際関係学院との交流協定締結を記念する学術交流会を行うことも目的にあった。そのせいか参加人数は31名とこれまでの4回と比べて最大である。

この稿は、私に関わった事前準備と中国訪問行程に限定して報告をさせていただく。小生は本研究所では「事務局長」であるが、今回の中国訪問「調査団」を結成してからは「秘書長」である。多数の秘書を引き連れていて彼らの「長」では決していない。部下たる秘書は一名もいないのであるが、交流協定締結に尽力された古川純所長や事務局員の方や海外合宿の経験の豊富な所員が積極的に協力して下さった。このことは先ず記して感謝しておきたい。そして高齢者の参加者が多かったにもかかわらず全員健康を害することもなく、また疲労で脱落される方もなく無事終了できたことも大変な喜びである。

1. 準備から出発まで

この計画は、11月初旬の事務局会議で先ず所長から提案され、同月下旬の運営委員会での了承を経て、12月初旬の社研の総会で承認されて実際の準備に入るのである。

これ以降は所長が中心となり、北京世紀津橋交流センターの孟祥傑氏にコーディネーターをお願いして計画が進められた。インターネットのEメールの便利さを活用して飛行機、宿泊施設、訪問先、日程（プログラム）等が確定していった。この間、所長が主として準備を進められ、小生は、社研の6号館から生田図書館分館への移転、社会科学研究叢書第一巻の刊行などに加え毎年度末の学年末試験、入学試験と多忙を極めたが何とか乗り切れた。

また昨年、12月5日（火）には「何芳川」北京大学副学長の専修大学訪問が交流協定締結を記念してあった。その際、92A会議室で何先生の講演「環太平洋地域における中国と日本の役割」（19名出席）を聞き事前準備が実質的に始まった。講演会の後、交流夕食会を向ヶ丘遊園で持った。

新しい年に入り、2月22日（木）には神田8A会議室で、準備と打ち合わせの会を開催した。日程や携行品の説明を行ない、シンポジウムでの社研側報告者である野口眞所員と樋口淳所員の報告の概要を聞いた。

3月15日8時30分成田第2ターミナルへ集合、結団式の後、日航JAL781便10時40分発で北

京に向かった。

2. 北京にて

北京に現地時間 13時15分着。アジアのハブ空港を目指していることとオリンピック開催のための準備もあって立派な空港ができあがっていた。空港にはコーディネーターの孟さんと通訳の段さんが迎えに来て居られた。

16時よりホテルにて今後の予定について連絡と説明がおこなわれた。小生は2年前から北京勤務になっていた教え子の青木隆生君（松下電工勤務）とホテルで会うことが出来た。40前の働き盛りで将来が嘱望される人物になっていた。彼と話しているとき、この調査団を相手に1-2時間話して貰えば、とも思ったが、後の祭りであった。

午後7時半より中国の伝統芸能「京劇」を鑑賞。

翌16日は午前9時より北京大学近くの「頤和園」を見学。壮大な景観に驚く。午後3時から「二十一世紀の中日関係の展望」と題された合同研究会が開催され、北京大学国際関係学院梁雲祥氏の「中日関係と東アジアのシステム」、社研野口眞所員（本月報の野口稿を参照）、樋口淳所員（本月報の樋口稿を参照）の三氏が報告された。

続いて18時から北京大学主催の合同交流夕食会が開催された。「教科書問題」「日本航空問題」「三菱自動車問題」もあって、やや緊張した雰囲気も見られた。小生の隣席に座られた若い教師からは「日本の若者の歴史認識」を聞かれ、「戦争責任」「歴史教科書」で少しの時間話し合うことが出来た。

3. 大連にて

17日午前中に北京空港を出発、午後大連到着後、法律事務所訪問（本月報の矢澤稿を参照）グループと、ディーゼルエンジンを製作している「中国第一汽車集团公司大連柴油机厂」（FAW D.L DIESEL）工場見学グループの二班に分かれて行動。第一汽車集团公司では安川電機に一年間研修に来た経験のある工場長（高清江氏）から日本語で説明を受けた後、工場内を見学。間近にバス、トラック用エンジンが作られる現場を視察。

18日は、日曜日のため、終日自由行動。歴史的に重要な場所、記念すべき地区、博物館等を見学。

19日は、午前中の大連市政府との懇談会には市の環境局、建設局、外資導入担当の方と共に副市長も接見され、お話し下さった。その席には通訳以上(?)に日本語を十分理解できる公務員もおられた。対外経済貿易委員会副主任高級国際商務師の肩書きを持つ于濤女史が、大連市の立地条件として優れているところを以下の6つ挙げてこれまでの行政の成果を説明された。

1.交通の便がよい。2.インフラが整備・充実している。3.投資環境が優れている。4.人材供給(教育施設)が整っている。5.お客様をもてなすのが好きである。6.行政機構が安定しており、トップが積極的に外資を導入しようとしている。

現在、日本でも地方自治体における国際姉妹都市協定などでの交流が盛んになっている折りでもあり、中国語や英語等関連国の言語を自由に使いこなせる公務員がいてもおかしくない状況である。先般、国土交通省(当時は国土庁)が発表した「21世紀の国土のグランドデザイン」の中では、「国土構造の転換」が国土づくりの最も大きな目標となっており、その国土構造は四つの「国土軸」から成るとされている。それらの軸を形成する「特性」或いは「共通性」の一つは「貿易相手地域」とされている。東京中心から、「国土軸」中心になるとき、軸を形成する地方自治体の職員の中に外国語に堪能であるのみならず、その相手国の歴史や社会に詳しい人物が重要な役割を果たすようになることは明らかである。

午後には17日と同様二班に分かれ人民法院(本月報古川稿を参照)と、大連市開発区管理センターを訪問した。管理センターでは経済開発、産業基盤整備、都市環境整備、居住環境整備と進出企業の状況について説明を受けた。午前中の説明と重複するところも少しあった。道路、港湾の整備といった産業基盤整備や補助金・税の減免などの優遇策で約100社の進出があった。しかし石炭や排気ガスによる汚染が見られ、1992年に白市長の強力な指導で、「最良を求める」政策に転換。大気汚染は20年前と比較して50%も改善され、水に関しても、37万トンの水を現在浄化し、上水道は70%普及している。違反者には厳しい罰金を課し、防止設備には補助金を与える政策が功を奏したようである。家庭から出るゴミに関しても「世界銀行」からの融資を受けて、処理場が造られている。しかし「分別収集」は十分ではないとのことである。1980年代に「観光都市」に重点を移し、92年からは「国際中心都市」に重点を置いて都市機能の整備・充実を図っているとのことである。

次いで管理センターを訪問した班は、日本からの進出企業である上下水道設備を製作している「大器環境保護設備公司」とレーザープリンターのカートリッジを製造している「キャノン大連事務機有限公司」(佳能大連力公設略有限公司)を見学した。大器環境保護設備公司では、總經理、大西健次氏から説明を受けた。従業員67名中、日本人は2名。中国でも上水道、下水道の重要性の認識が高まり、この企業の果たす役割(利益)も大きくなっているようである。中国経済も生産活動重視の開発から市民生活重視に変わりつつあり、環境関連の企業の重要性が増してきているのである。日本と似ている自然環境、そして経済発展のたどり方から見れば「住居」の高質化へも目が向けられて当然である。北京で会った教え子もこういった関連で進出した企業で活躍しているのである。幸いなことに「水俣病」「イタイイタイ病」といった公害はないようであるが、生活方式の違いから生じる問題への対応はこれからであり、マーケッ

トも大きいであろう。

次に見学したキャノン大連事務機有限公司は従業員約3,000名でそのうち日本人は17名である。製品は全て輸出、主に日本、アメリカ、ヨーロッパへ輸出。製造活動の効率化のために「TSS」(Time, Space, Saving)を実行。労働者の作業も単純な一作業ではなく、3乃至4作業をさせる方式を開発して採用、成果を上げていた。カートリッジを年間1000万本生産し、リサイクルにも積極的に取り組み、これまでに約3,000万本をリサイクルしているそうである。主要部品は日本から輸入し、ローカルコンテンツは約20%だそうである。不良化率は0.2%と極めて良い。

同日夕には、社研主催で市政府と法律事務所の方及び関連した方々を招いて合同交流夕食会を開催して感謝の意を表した。

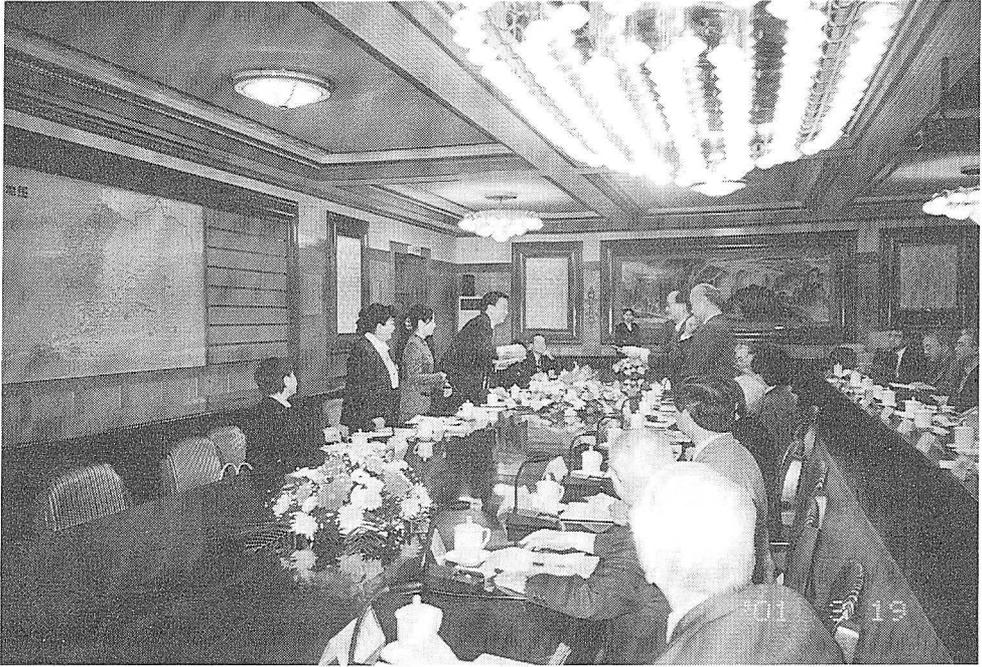
4. 帰国の途へ

大連のホテルを朝早く出て空港に向かい、青島を経由して帰国の途に着いた。青島では4時間ほどの待ち時間を利用して、バスで市内を見学。町並みもさまざまに非常に綺麗でドイツ支配の名残を色濃く残しているところもあれば、発展途上にある貧しい人々の住む商店が連なるところもあった。日本から近いこともあって進出企業も多いそうだが、見学することは今回は出来なかった。

20日、午後6時、全員無事、成田着。帰国手続き後、解散式。準備からの長い旅は終了した。最後にお世話下さったかた全員に心からお礼を申し上げます。謝々。

5. 参加者名簿

1. 石塚 良次 (経済学部)
2. 泉 武夫 (経済学部)
3. 井上 裕 (経営学部)
4. 内田 弘 (経済学部)
5. 笠原伸一郎 (経営学部)
6. 加藤幸三郎 (経済学部)
7. 鐘ヶ江晴彦 (文学部)
8. 儀我壮一郎 (研究参与)
9. 北川 隆吉 (研究参与)
10. 栗木 安延 (研究参与)
11. 黒田 彰三 (経済学部)
12. 木幡 文徳 (法学部)
13. 坂本 重雄 (法学部)
14. 嶋根 克巳 (文学部)
15. 丹沢 安治 (経営学部)
16. 殿村 晋一 (商学部)
17. 野口 眞 (経済学部)
18. 樋口 淳 (文学部)
19. 平川 東亜 (経済学部)
20. 平島 眞一 (経済学部)
21. 広瀬 裕子 (法学部)
22. 福島 義和 (文学部)
23. 古川 純 (法学部)
24. 松浦 利明 (経済学部)
25. 水川 侑 (経済学部)
26. 宮崎 晃臣 (経済学部)
27. 村上 俊介 (経済学部)
28. 望月 宏 (経済学部)
29. 矢澤 昇治 (法学部)
30. 矢吹 満男 (経済学部)
31. 高橋 誠 (法学部非常勤講師)



大連市人民政府 夏 常務副市長会見場にて